

# 旧樽川小中学校史

## 「樽川」の地名

学校名の「樽川」という名称は「小樽内(おたるない)川」が省略されたもので、「小樽内」はアイヌ語の「オタ・オル・ナイ」(砂浜の中の川)に由来した地域名です。

この地域は、明治15年に樽川村として開村し、その後、明治35(1902)年、花畔(ばんなぐろ)村との合併で花川村に、そして、明治40(1907)年、石狩町との合併で石狩町となりました。なお、石狩町は平成8(1996)年9月1日に、「石狩市」となり市制が施行されています。

## 新樽川中学校と旧樽川中学校

本校は、平成7年4月に石狩市(開校時は石狩町)の5番目の中学校として開校しましたが、実は、その前にも樽川中学校は存在していました。

旧樽川中学校は、もともと1954年(昭和29年)4月に開校し、1973年(昭和48年)、石狩湾新港の開港等により19年の歴史に幕を閉じ、閉校しました。

その後、現在の樽川地区の宅地開発により、花川南中学校から分離する形で、新樽川中学校として開校するという、特異な歴史をもった学校です。

## 旧樽川中学校開校の経緯

旧樽川中学校は、昭和48年3月に廃校となっていますが、その歴史は、『たるかわの歩み樽川百年史』と『記念誌たるかわ石狩町立樽川小中学校開校八十五周年記念』に記されています。

『たるかわの歩み樽川百年史』には、「1948年(昭和23年)6月2日(ちなみにこの年の干支は子(ねずみ)で、この日は水曜日でした。)に樽川地区の住民が花川中学校の分校を設けなければ『隣の手稲村に身売りする』と石狩町に対し強硬な態度に出た」という北海道新聞の当時の記事が紹介されています。

当時の樽川地区は、今より海沿いにあり、現在は石狩湾新港用地になっている地域です。ここから、花川中学校(現在の市役所近辺)まで通うことになっていたということです。

住民にとっては、遠い花川中学校まで、特に冬は吹雪の中を通学することもあったことから、樽川地区に中学校を設置することは悲願であったことがこの記事からもわかります。その熱意が実り、翌1949年10月1日(土)花川中学校樽川教場が樽川小学校に併置され、1954年(昭和29年)4月、石狩町立樽川中学校として独立(2学級編制で生徒数55名)し、樽川小学校に併設されました。

## 樽川村史と旧樽川小学校沿革史

『記念誌たるかわ石狩町立樽川小中学校開校八十五周年記念』の校史略年表によりますと、明治13年、開進会社により「オタルナイ川畔」より西二線まで開拓が始まり、その後、明治15年2月に樽川村として開村とあります。なお、この開進会社については、1957年発表の高倉新一郎氏による北海道大学経済学研究「北海道開進社顛末」で紹介されています。

明治20年11月 樽川村、山口村の共同で樽川村の西端(オタルナイ川)の西辺に寺子屋を設立。生徒数20名、授業料月10銭徴収

明治30年 1月 西三線に簡易教育所を設立

明治34年 3月 樽川尋常小学校と改称。4年生で単級編制

明治35年 4月 樽川村と花畔村が合併し花川村となり、花川村樽川尋常小学校と改称

明治40年 4月 石狩町、花川村が合併し石狩町となり、翌年9月、石狩町花川小学校樽川分教場と改称

明治45年 6月 石狩町樽川尋常小学校と改称

昭和16年 4月 石狩郡樽川国民学校と改称

昭和17年 4月 高等科を併置する。3学級編制認可。初等科80名、高等科21名

昭和22年 4月 石狩町立樽川小学校と改称

ここまでが樽川小学校の変遷となります。樽川小学校と改称したその年の8月、学校に電灯が付けられたとあります。

## 旧樽川中学校沿革史

この後、いよいよ旧樽川中学校史が始まります。つまり、中学校の歴史は、学校に電灯がついてからということになります。

昭和23年 1月 石狩町立花川中学校樽川教場を併置し中学校の授業を開始

昭和27年 7月 校章を全生徒、全職員の協力により設定

昭和28年 4月 石狩町立花川中学校樽川分教場を併置。1学級編制、在籍数49名

昭和29年 4月 石狩町立樽川中学校と改称し、小学校に併置し校長兼務発令となる。2学級編成認可。在籍数55名。

昭和31年 8月 3学級編制認可。在籍数59名

昭和32年12月 校歌制定

昭和47年 1月 PTA全会員の創意のもと48年3月で廃校することに決定

昭和47年 9月 開校85周年記念式を挙行

昭和48年 3月 閉校式を挙行

以上が、主な樽川小中学校史になります。関連する特徴的な出来事としては、

- ・昭和15年10月、校庭に二宮金次郎像が建設され、
- ・昭和37年11月には、中央バス樽川線が開通。
- ・昭和38年2月に農村集団自動電話(農集電話)が学校に架設 ということは、電話がついたのは閉校の10年前ということでした。

## 閉校の背景

昭和47年に発行された『記念誌たるかわ』に、樽川小中学校開校八十五周年記念事業実施についての趣意書が掲載されていますので、その一部を紹介します。(原文のまま)

「われわれ父祖が樽川村に入殖以来満九十二年、言語に絶する苦難の道を歩みながらも、着々開拓を進め今日の隆盛をみるに至っております。

その間明治二十年十一月いわゆる寺子屋として生徒数二十名をもって教育の場を設けて以来設置者には多くの変遷がありました。が学校はわれわれ子弟の教育の場として、さらには部落の中核的な役割を果してまいりました。その間陰に陽にその運営に尽力して今日に至っております。

今回石狩湾新港建設のことが決定しその後背用地としてわれわれはその所有してきた土地を売渡したり、あるいは港湾の直接用地になるため家屋移転をよぎなくされ、生活の根拠を現在地以外に新に設けなければならなくなりました。

このため過日石狩町教育委員会は樽川小中学校を昭和四十八年三月末を以て廃校したい旨を示しました。数度にわたる話し合いの結果石狩町今後の発展のためわれわれはこれを了承しました。

ここに、明治二十年十一月樽川に寺子屋を設けて以来八十五年にして、樽川小中学校としての歴史の幕をとじることになったわけであります。(以下略)

## 樽川中学校名称復活への思い

この記念誌には、卒業生の座談会が掲載され、その中で、昭和10年に卒業したOBの方が「(閉校に当たり)本当に寂しいですね。南線に移住した地域に樽川町内会をつくりいつまでも樽川の名を残したい。」と語り、それを受けて大正12年卒業のOBの方が、「是非そうしたい。そして設備の整った学校をつくり樽川の名前を付けたい。そうした中で石狩湾新港の発展を見守りたいですね。」と語っています。

まさに、その思いが1973年(昭和48年)旧樽川中学校閉校から22年後の平成7年4月、花川南中学校からの分離校が樽川中学校という名称を受け継ぐことになりました。

## 石狩町立樽川小中学校校歌

昭和48年3月31日をもって閉校した石狩町立樽川小中学校の校歌です。

残念ながら、楽譜が見つかりません。もし、お持ちの方がいらっしゃいましたら、本校までご連絡いただければ幸いです。

校歌制定 昭和32年12月

一	緑の地平に	早苗はなびく
	学びの窓の	陽はうららかに
	文化の理想を	胸にひめ
	明るく強き	ちかいもかたく
	われらは学ぶ	樽川校

二	石狩湾の	潮風うけて
	学びの庭には	はまなすかおる
	平和な世界を	きずくため
	手に手をとって	結びもかたく
	われらは励む	樽川校

三	はるかな峰に	白雲たなびき
	学びの道に	いそしむわれら
	自由の息吹	あらたなる
	希望にもゆる	歩みもかたく
	われらは築く	樽川校